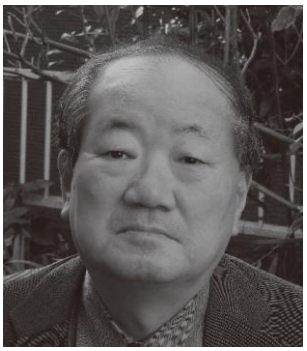
縮小社会研究会　第 81 回研究会

日時：2024 年 7 月 27 日（土）　19：30 ～ 21：00、　オンライン開催（zoom）

日本の教育は受験に振り回され、もっぱら答えの暗記になっており、自ら考える学習が欠如している。学校は選別機関となっている。一流大学、一流会社に就職すれば、人生の上がりである。これからの社会の変動に耐えられるか、それとも沈没するかは、教育にかかっている。

近代公教育のこれまでとこれから
－縮小社会へのみちすがらを楽しむ－

講師：葉養正明さん（東京学芸大名誉教授、国立教育政策研究所名誉所員）



講演要旨：近代社会は施設型学校をあまねく生み出し、ナショナリズムの培養、近代技術の伝播などを進めてきた。その結果として、生活の合理化、近代化が促進され、快適な生活環境も生み出されはしたが、世界各国や人種・民族間のマンパワー培養の戦いや国力の対抗なども生まれ途切れることのない戦乱が地球上にはびこることになった。人間の側にしても、競い合い、対抗から抜け出ることができずに、格差のわなから抜け出ることができないでいる。教育は、子どもとして生れ落ちる人間を一人前に育て、楽しい、快適な人生を用意するためのもののはずなのに、資質や能力をめぐる個人間の対抗、ひがみあい、差別の文化の中に没入し苦悩している。

本発表では、産業革命やフランス大革命などを経由して近世社会にたもとを分かち、近代社会の歩みを続けてきたはずの「これまで」を振り返り、右肩上がりの開発主義、膨張主義に代わり「縮小社会」へと歩みを進める手立てについて考えてみることにする。

特に焦点を置くのは、乳幼児期から小中学校に至るまでの基礎教育段階である。基礎教育段階は、人間としての土台を作り上げる時期であり、非認知的能力が豊かに培養される時期である。しかし、現実は、認知的能力の獲得を競い合う、ぎらぎらした人々の欲望に満ち満ちている。同時に、基礎教育期は家庭、地域、学校が豊かな土壌を用意して子育て・教育にかかわる時期であるが、核家族化は進行し、地域の協働が媒介しない子どもの成育が広がっている。

ここでは縮小社会への道筋を意識しながら、基礎教育期を焦点に、子どもの成長発達の道すがらについて、考えることにしたい。

葉養正明さんの略歴：　https://bunkyo.repo.nii.ac.jp/records/7687
東京教育大学大学院博士課程修了。専門は教育政策論、教育社会学。近年は、少子化・人口減少、大震災や戦乱などの社会変動下の教育復興や地域計画等に関心を抱く。

zoom の URL：https://us02web.zoom.us/j/89787852949?pwd=juaVaCPxJdGQRuBOo2e6rjKhH3EGoy.1
ミーティング ID：897 8785 2949　　パスコード：370534

参加登録：会員は不要。非会員の方は松久（h.matsuhisa@shukusho.org）まで連絡願います。

参加費：会員は無料、非会員は 500 円

一般社団法人 縮小社会研究会　e-mail: jimukyoku@shukusho.org　HP: http://shukusho.org/